

## 高校新学習指導要領— ① 総則改訂の要点

### 1. 生きる力の育成及び知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視

各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に修得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

### 2. 各教科・科目等の構成

- ① 共通性と多様性のバランスを重視し、学習の基盤となる国語、数学、外国語に共通必修科目を設定するとともに、理科の科目履修の柔軟性を向上する。
- ② 総合的な学習の時間はすべての生徒に履修させるものとする（3～6単位）が、特に必要がある場合にはその単位数を2単位とすることができる。
- ③ 学習指導要領に示す教科・科目以外の教科・科目について、各学校が名称、目標、内容、単位数等を定め、設けることができることとする。これを「学校設定科目」および「学校設定教科」として示す。
- ④ 必履修教科・科目の合計単位数は、現行の31単位以上と同じ。
- ⑤ 総合学科（単位制による課程）においては、「産業社会と人間」を必履修科目とする。

### 3. 教育内容の主な改善事項

- ① 言語活動の充実（国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実）
- ② 理数教育の充実（近年の新しい科学的知見に対応する観点から指導内容を刷新。統計に関する内容を必修化（数学Ⅰ）。知識、技能を活用する学習や探求する学習を重視。指導内容と日常生活や社会との関連を重視（「科学と人間生活」を新設）
- ③ 伝統や文化に関する教育の充実（歴史教育、宗教に関する学習を充実。古典、武道、伝統音楽、美術文化、衣食住の歴史や文化に関する学習を充実）
- ④ 体験学習の充実（ボランティア活動などの社会奉仕、就業体験の充実。職業教育において、産業界等における長時間の実習を取り入れることを明記）
- ⑤ 外国語教育の充実（高等学校で指導する標準的な単語数を1,300語から1,800語に増加。授業は英語であることを基本）
- ⑥ 職業に関する教科・科目の改善（職業人としての規範意識や技術の進展や環境、エネルギーへの配慮、地域産業を担う人材の育成等、各種産業で求められる知識と技術、資質を育成する観点から科目の構成や内容を改善）
- ⑦ その他（体育、食育、安全教育を充実。環境、消費者に関する学習を充実。情報の活用、情報モラルなどの情報教育を充実。部活動の意義や留意点を規定。障害に応じた指導を工夫（特別支援教育）。「はじめて規定」を原則削除。

### 4. 授業時数等

- ① 全日制課程における週当たりの標準授業数は、現行どおり30単位時間。ただし、この標準授業数を超えて授業を行うことができる。
- ② 授業の1単位時間について、現行どおり50分を標準とする。ただし、10分間程度の短い時間を単位として特定の各教科・科目の指導を行う場合において、当該各教科・科目を担当する教師がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任もって行う体制が整備されているときは、その時間を当該各教科・科目の授業時数に含めることができる。

### 5. 義務教育段階での学習内容の定着

学校や生徒の実態に応じ、必要がある場合には例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着をはかるようにすること。

- ①各教科・科目の指導に当たり、学習機会を設ける。
- ②必履修教科・科目の標準単位数の限度を超えて配当する。
- ③学校設定科目等を履修させたあとに必履修教科・科目を履修させる。

### 6. 単位の修得の認定等

卒業に必要な修得総単位数は、現行どおり74単位以上とする。ただし、普通科において、この単位数に含めることができる学校設定科目及び学校設定教科に関する科目に関わる修得単位数は合わせて20単位を超えることができない。

#### ● 高等学校教育課程の基準の概要

(学年制の定時制及び通信制に関しては省略)

		学年制（全日制）		
		普通科	専門学科	総合学科
各教科科目等の履修等	必履修教科科目等	○普通教科10教科（「数学基礎」「国語 総合」「コミュニケーション英語 I」「総合的学習の時間」については、各2単位まで減らすことが可能）	○普通科に同じ（ただし、専門教科科目による代替可能） ○専門教科科目25単位以上（ただし、5単位まで普通教科科目による代替可能）	○普通科に同じ ○「産業社会と人間」 ○「産業社会と人間」及び専門教科・科目を25単位以上
	年間授業週数	○年間35週を標準		
	週当たりの授業時数	○30単位時間(*)を標準		
	1単位の時間数	○35単位時間(*)を標準		
	授業の1単位時間	○学校が適切に決める。		
各教科科目等の授業時数等	特別活動	○ホームルーム活動：年間35単位時間(*)以上 ○生徒会活動，学校行事：適切な時数		
	修得総単位数	○74単位以上		
単位の修得等	学校設定教科科目	○修得総単位数に含めることができるのは20単位まで（中等教育学校，併設型高校は30単位まで）	○制限なし	
	大検合格科目	○単位認定不可		
その他代替等	就業体験	○職業教科科目の実習に代替可能		
	農林・水産・家庭に関する科目	○家庭，農業及び水産の授業時数の10分の2以内を充てることが可能		
	実務代替	○実務代替不可		

(\*) 1単位時間を50分として計算する

## ② 「外国語」改訂の要点

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
外国語の目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	●的確さや適切さが求められ、より正確なコミュニケーション能力の養成が目標となった。
科目編成	コミュニケーション英語基礎（2単位） コミュニケーション英語Ⅰ（3単位）＊2単位まで減可 コミュニケーション英語Ⅱ（4単位） コミュニケーション英語Ⅲ（4単位） 英語表現Ⅰ（2単位） 英語表現Ⅱ（4単位） 英語会話（2単位）	●英語Ⅰ・Ⅱはコミュニケーション英語に、OCⅠ・Ⅱはコミュニケーション英語と英語会話と英語表現に、リーディングはコミュニケーション英語に、ライティングはコミュニケーション英語と英語表現にそれぞれ分化・統合された。
各科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーション英語基礎—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。</li> <li>●コミュニケーション英語Ⅰ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</li> <li>●コミュニケーション英語Ⅱ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。</li> <li>●コミュニケーション英語Ⅲ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。</li> <li>●英語表現Ⅰ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</li> <li>●英語表現Ⅱ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。</li> <li>●英語会話—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、具体的な段階を踏んでより高次に至る目標設定がなされた。</li> <li>●英語表現では「多様な観点から考察」する客観性と「論理の展開や表現の方法を工夫」するなどのアカデミックな要素が重視され、英語会話との差別化が図られた。</li> <li>●英語会話では「身近な話題について」の日常的な会話能力の養成が明示され、英語表現との差別化が図られた。</li> <li>●全科目で「英語を通じて」の授業が前提とされた。</li> </ul>

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
英語基礎の内容 コミュニケーション	<p>(1) 目標に基づき、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)に示す言語活動を参照しつつ、適切な言語活動を英語で行う。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、それぞれの生徒の中学校における学習内容の定着の程度等を踏まえた上で、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(2)のアに示す事項を参照しつつ、適切に指導するよう配慮するものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学英語の延長線上に位置づけられ、高校英語への橋渡しとなることが示されている。</li> </ul>
コミュニケーション英語Ⅰの内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践する」という要素が加わり、実践的なコミュニケーション能力の養成が強調されている。</li> <li>● 「事物に関する紹介や対話」、「説明や物語」、「音読」、「簡潔に書く」など、具体的な活動内容が加わった。</li> <li>● 「話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりする」などコミュニケーションの上での具体的な注意点があげられている。</li> <li>● 「内容の要点を示す語句や文」、「つながりを示す語句」などに留意した精緻な読み書きが求められるようになった。</li> <li>● 「事実と意見などを区別」という文字が加わった。</li> </ul>
コミュニケーション英語Ⅱの内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。</p> <p>エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前書きはコミュニケーション英語Ⅰと同文。</li> <li>● 「事物に関する紹介や報告、対話や討論」、「説明、評論、物語、随筆」、「速読や精読」、「暗唱」、「まとまりのある文章を書く」など具体的な活動内容が加わり、コミュニケーション英語Ⅰを発展させた内容となっている。</li> <li>● 「内容の展開」、「論点や根拠」、「文章の構成や図表との関連」、「未知の語の意味を推測」、「背景となる知識を活用」、「説明や描写の表現を工夫」することなどの具体的な活動内容が加わり、コミュニケーション英語Ⅰを発展させた内容となっている。</li> </ul>

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
コミュニケーション英語Ⅲの内容	<p>(1) 目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」の2の(1)に示す言語活動を更に発展させて行う。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を行うに当たっては、「コミュニケーション英語Ⅱ」の(2)と同様に配慮するものとする。</p>	<p>●コミュニケーション英語Ⅱの延長線上に位置づけられ、さらに発展させた内容となっている。</p>
英語表現Ⅰの内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</p> <p>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと。</p> <p>イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くこと。また、書いた内容を読み返すこと。</p> <p>ウ 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用すること。</p> <p>エ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。</p>	<p>●前書きはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱと同文。</p> <p>●「話す」ことや「書く」こと、「発表」することなど、自己発信の能力に焦点が当てられている。</p> <p>●「書いた内容を読み返す」「発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習する」など、自分の意見の発表が到達点とされている。</p> <p>●一方的な発表にとどまらず、「他の意見と比較して共通点や相違点を整理」することによって討論（英語表現Ⅱの内容）への橋渡しとなっている。</p>



	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
英語表現Ⅱの内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。</p> <p>イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。</p> <p>エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。</p> <p>ウ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。</p> <p>エ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うこと。</p>	<p>●前書きはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰと同文。</p> <p>●「与えられた条件に合わせて即興で話す」、「論理的に話す」、「様々な種類の文章を書く」、など、英語表現Ⅰの活動内容を発展させた内容となっている。</p> <p>●「発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする」、「相手を説得するために意見を述べ合う」など、双方向のコミュニケーションに焦点が当てられている。</p> <p>●英語表現Ⅰの「発表」から「討論」へと発展し、自分の考えと他人の考えを還元し合うような双方向のコミュニケーションに焦点が当てられている。</p>
英語会話の内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。</p> <p>イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。</p> <p>エ 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 繰り返しを求めたり、言い換えたりするときなどに必要となる表現を活用すること。</p> <p>ウ ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割を理解し、場面や目的に応じて適切に用いること。</p>	<p>●前書きはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱと同文。</p> <p>●「相手の話を聞いて理解する」「適切に応答する」「相手に質問する」「相手の質問に答える」「海外での生活に必要な基本的な表現を使う」など、日常会話レベルのコミュニケーション能力の養成に焦点が当てられている。</p> <p>●日常会話特有の言い回しやジェスチャーなど、実践的なコミュニケーション能力の養成に焦点が当てられている。</p>

### ③ 英語言語材料一覧

\*印は編集部注

音声	文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の標準的な発音</li> <li>・語と語の連結による音変化</li> <li>・語、句、文における基本的な強勢</li> <li>・文における基本的なイントネーション</li> <li>・文における基本的な区切り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単文    ・重文    ・複文</li> <li>・平叙文 (肯定・否定)</li> <li>・命令文 (肯定・否定)</li> <li>・疑問文                             <ul style="list-style-type: none"> <li>動詞で始まるもの</li> <li>助動詞(can, do, may)で始まるもの</li> <li>or を含むもの</li> <li>疑問詞で始まるもの</li> </ul> </li> </ul>
<b>文構造</b> * 「文型」から「文構造」に表記がかわった	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S+V</li> <li>・ S+V(=be)+C(=n., pron., adj.)</li> <li>・ S+V(≠be)+C(=n., adj.)</li> <li>・ S+V+O                             <ul style="list-style-type: none"> <li>=n., pron., 動名詞, to 不定詞</li> <li>=how(など)+to 不定詞</li> <li>=that で始まる節</li> <li>=what などで始まる節</li> <li>* 「理解の段階にとどめる」という表記がはずされた</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S+V+O+O                             <ul style="list-style-type: none"> <li>= n., pron.,</li> <li>= how(など) + to 不定詞</li> <li>* 「理解の段階にとどめる」という表記がはずされた</li> </ul> </li> <li>・ S+V+O+C(= n., adj.)</li> <li>・ There+be 動詞+～</li> <li>・ It+be 動詞+～(+for ~)+to 不定詞</li> <li>・ S+tell, want など+目的語+to 不定詞</li> </ul>

\* 以上は中学既習事項。高校ではそれぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる

#### ● 「言語の使用場面の例」及び「言語の働きの例」

言語の使用場面の例	言語の働きの例
<p>a. 特有の表現がよく使われる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買物    ・旅行    ・食事    ・電話での応答</li> <li>・手紙や電子メールのやりとり など</li> </ul> <p>b. 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での生活    ・学校での学習や活動</li> <li>・地域での活動    ・職場での活動 など</li> </ul> <p>c. 多様な手段を通じて情報を得る場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本、新聞、雑誌などを読むこと</li> <li>・テレビや映画などを観ること</li> <li>・情報通信ネットワークを活用し情報を得ること</li> </ul> <p>* 創作的なコミュニケーションの場面がはずされた</p>	<p>a. コミュニケーションを円滑にする：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相づちを打つ    ・聞き直す    ・繰り返す    ・言い換える</li> <li>・話題を発展させる    ・話題を変える など</li> </ul> <p>b. 気持ちを伝える：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・褒める    ・謝る    ・感謝する    ・望む    ・驚く</li> <li>・心配する など</li> </ul> <p>c. 情報を伝える：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明する    ・報告する    ・描写する    ・理由を述べる</li> <li>・要約する    ・訂正する など</li> </ul> <p>d. 考えや意図を伝える：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申し出る    ・賛成する    ・反対する    ・主張する</li> <li>・推論する    ・仮定する など</li> </ul> <p>e. 相手の行動を促す：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼する    ・誘う    ・許可する    ・助言する    ・命令する</li> <li>・注意を引く など</li> </ul>

	中学	高校
代名詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人称 ・指示 ・疑問 ・数量</li> <li>・関係代名詞（主格の that, who, which 及び目的格の that, which の制限的用法）</li> <li>* 関係代名詞について「理解の段階にとどめる」という表記がはずされ、「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞の用法</li> <li>・代名詞のうち, it が名詞用法の句及び節を指すもの</li> </ul>
助詞・助動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在 ・過去 ・未来</li> <li>・進行形（現在・過去） ・現在完了形</li> <li>・助動詞などを用いた未来表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞の用法（新規）</li> <li>・動詞の時制</li> <li>* 動詞の時制についての具体的な記述がはずされた</li> </ul>
形容詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較変化</li> </ul>	
副詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係副詞の用法</li> </ul>
不定詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・to 不定詞</li> <li>* 「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不定詞の用法</li> </ul>
動名詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動名詞</li> <li>* 「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>	
分詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形容詞的用法（現在分詞・過去分詞）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分詞構文</li> <li>* 「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>
受け身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け身</li> <li>* 「現在形及び過去形」という表記がはずされた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「受け身のうち, 助動詞＋受け身のもの」という表記がはずされた</li> </ul>
仮定法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮定法</li> <li>* 「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>
文字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットの活字体の大文字及び小文字</li> </ul>	
符号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終止符, 疑問符, コンマ, 引用符, 感嘆符などの基本的な符号</li> </ul>	
新出語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1,200 語程度の語</li> <li>* 必修語がなくなった</li> <li>旧規定では 900 語程度まで（うち必修語 100）</li> <li>「まで」という上限がなくなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション英語Ⅰ 中学＋400 語程度</li> <li>・コミュニケーション英語Ⅱ 中学＋Ⅰ＋700 語程度</li> <li>・コミュニケーション英語Ⅲ 中学＋Ⅰ＋Ⅱ＋700 語程度</li> <li>・上記以外の科目については, 生徒の学習負担を考えた適切な語</li> </ul>
連語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・in front of, a lot of, get up, look for などの連語。</li> <li>* 具体例が挙がった</li> <li>「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用度の高いもの</li> </ul>
慣用表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome, for example などの慣用表現</li> <li>* 「基本的なもの」という表記がはずされた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用度の高いもの</li> </ul>